

## 1 令和4年度大学入試より

### (1) 全国的な動向

令和4年度大学入試の最も大きな特徴は、大学入学共通テスト（以下、「共通テスト」と表記）の平均点が昨年度に比べて大幅に下がったことです。そして、このような状況下でも、全国的に国公立大学の出願者数はほとんど減少しませんでした。受験生が前向きに国公立大学に出願したといえます。

志願者が増加した学部系統は、理系、医療系、スポーツ・健康系が目立ちました。理系、医療系に関しては、コロナ禍で不安な情勢を反映して、大卒後の就職を意識した分野が増加してようです。スポーツ・健康系は東京五輪の影響のようです。

近年、大学入試においては「既卒生の減少、現役生中心の入試」となっています。18歳人口の減少が向こう数年続いていくので、こうした傾向は続きます。したがって、本校の進路指導方針の根幹である「高い希望を持ち、第一希望を最後まで貫く」ことが重要になると考えます。お子様が自信をもって大学入試に臨めるようにサポートしてまいります。

### (2) 本校（74回生）の入試結果より

この春卒業した本校卒業生(74回生)においては、いわゆる国公立難関大学の志望者は昨年度より増えました。進路指導方針として伝えている「第一希望を最後まで貫く」姿勢が浸透してきたと感じています。しかし、国公立難関大受験において涙を飲んだ生徒が少なくないことも事実です。進路指導部としては、74回生の先輩が残した結果を踏まえ、後輩たちの入試の成功につなげていくことが大きな課題です。

4月中旬に、新旧3年担任会を実施し、令和4年度の入試での成功例や反省点を共有しました。そこで痛感したことは、「第一希望を貫かせ、試験当日まで成長するということを強く伝えて自信を持たせること」と「面談等を密にして個別に対応すること」です。旧担任の先生から「高い目標を設定すべき」、「面談が重要」という言葉が印象に残っています。3年生には新旧担任会の翌週から、卒業生に書いてもらった「私の受験勉強法（合格体験記）」を1学期の間毎週配付しています。長期的な学習計画を立てるお手本になると思いますし、早めに先を見通してほしいです。

近年、国公立大の個別試験（2次試験）で面接や小論文が課されることが増えてきたように思います。試験の配点には入らないのに小論文や面接を課す大学も散見されます。共通テスト後に国公立大学2次試験対策として、希望者を募って面接・小論文指導を行っています。生徒は非常に熱心に取り組み、担当する教員も時間をかけてこまめに添削指導を行っていました。卒業式後にも登校して後期試験対策に取り組む姿もありました。部活と学業、そして行事、課題研究に真剣に取り組んだ本校生徒は、小論文や面接に生かせる『ネタ』をたくさん持っており、自信を持った状態で試験に臨めたように感じます。

74回生は、学習室で授業後や土曜日に学習している生徒が多かったです。廊下ですれ違う時や帰り際に声を掛けることが多かったです。質問や相談にもよく来てくれました。学習の進捗状況も確認でき、不安な声も和らげることができたように思います。『受験は団体戦』を教員も生徒も行えた学年団でした。

### (3) 自己採点速報

進路指導部は、共通テスト模試や共通テスト本番後にコメントを付した「自己採点速報」を配付しています。結果に一喜一憂せず、冷静に結果を受け止めて、その後の成長に結びつけてほしいと思い、作成しています。また、コメントは、生徒の背中を押すメッセージを学年主任とともに考えています。一例として、令和4年度大学入学共通テスト翌日のものを載せておきます。

○「2回目の試験は難易度が上がるとの想定通り、平均点は大きく下がりました。難しいと思っているのはあなただけではありませんよ。したがって、昨年度までの得点を追いかけて、これから出てくる情報を元に客観的に冷静に自分の立ち位置を確認してください。難関大では、やはり二次学力が合否を分ける要因となります。最後まで自分の志望を貫いてください。」  
○2日間の共通テストお疲れさまでした。個別試験までは「時間との勝負」であり、ここからが正念場になります。結果に一喜一憂せず、志望校合格に向けて1日でも早く、1時間でも早く気持ちを切り替えて準備を進めてください。個別試験に向けて、明日からの特別時間割が切り替えのチャンスです。食事や睡眠を大切にしながら、74回生の仲間とともに、受験シーズンを乗り越えよう。」

## 2 面談週間

今年度から新学期開始から1週間、面談週間が設けられました。普段から担任の先生がこまめに面談していますが、日程を設けたことによって、以前より余裕を持って面談が進んだのではないかと感じています。こうした機会は、お子様の気持ちを汲み取ったり進路相談に乗ったりと信頼関係を築ききっかけになると思います。そして、3年生になったとき、生徒、教員一団となった「受験は団体戦」の雰囲気が醸成されていくように感じます。進路指導部としても、面談時以外にも声を掛けることを意識し、気軽に生徒が相談や資料の閲覧等に来やすい進路指導室にしたいと考えています。

## 3 進路の手びき

6月上旬に全校生徒に『進路の手びき』を配付します。卒業生（74回生）の成績等のデータを中心に作成した本校の進路指導の道標となるように作成しています。保護者の方にもぜひ手に取ってご覧いただきたいです。とりわけ、74回生の「合格体験記」にはたくさんの卒業生が協力してくれました。どの体験記にもそれぞれのストーリーがあり、大いに参考になります。私が読んでも参考にしたいくなるようなアドバイスもあります。1人でも多くの在校生が「第一希望」を実現して、後輩のために合格体験記を書いてもらえると嬉しいです。

## 4 令和4年度愛知県立刈谷高等学校進路指導シラバス

昨年度から配付しています。PTA総会で配付された学年資料にもありますし、『進路の手びき』と本校ホームページにも掲載してあります。シラバスにおいては、実態に応じて発展させていく必要があると考えています。進路指導部としても反省を踏まえながら、お子様にとってよりよい進路指導ができるように常に発展していきたいと考えています。

## 5 新課程入試について（1年生）

今年度入学した1年生から新学習指導要領がスタートしました。それに伴い、大学入試においての変更点があります。大学入学共通テストに関して発表されている主なことは、新教科である「情報」が加わること、「地理歴史・公民」の出題科目が再編されること、数学②が「数学Ⅱ、数学B、数学C」が1科目となることです。新課程入試においては、正確な情報がまとまり次第、「進路だより」や生徒向けの『進路通信』等でお知らせする予定です。

## 6 最後に

最近、イチロー選手を特集した雑誌を読みました。イチロー選手と一緒に戦った選手たちがイチロー選手のすごさを評する特集ページがありましたが、一様に「どんな状況であろうと必要な準備を徹底して行う」と述べていました。元同僚である菊池雄星投手は、「『自分に自信を持って』と言われるが、それは難しいことである。いい時も悪い時もやり続けることが自分を支えてくれる」とイチロー選手からアドバイスをもらったそうです。受験勉強もまさにその通りではないかと思えます。私たち教員も、生徒に「自信を持ちなさい」と気軽に言うことがありますが、まず、「やるべきことを毎日続けなさい。それが自信につながる」ということも伝えていきたいと感じました。進路指導部としては、お子様の「第一希望の実現」へのサポートを全力で行います。

（文責 進路指導主事 岩崎 達哉）

参考資料

河合塾、駿台予備学校各種進学指導資料、「Sports Graphic Number1049号」（文藝春秋社）